

TOP

トップメッセージ

サステナビリティ重点項目

- ー 健やかな地球環境を未来につなぐ
- ー レジリエントな社会の実現へ貢献する
- ー すべての人の幸福と自分らしい生き方を支える

特集

- ー 社員インタビュー  
交通安全 EBPM 支援サービス
- ー 社員インタビュー  
リアルタイム被害予測ウェブサイト cmap
- ー 社員インタビュー  
誰もが活躍できる共生社会の実現

会社概要



まだ誰も知らない安心を、ともに。

# コミュニケーションレポート 2023

## サステナビリティ重点項目



# まだ誰も知らない安心を、ともに。



当社は「レジリエントでサステナブルな社会」の実現に向けて3つのサステナビリティ重点項目を設定し、社会・地域課題の解決を通じて社会のサステナビリティと当社の持続的成長の同時実現を目指します。



コミュニケーションレポート動画



健やかな地球環境を  
未来につなぐ



レジリエントな社会の  
実現へ貢献する



すべての人の幸福と  
自分らしい生き方を支える

## 特集 | 社員インタビュー



交通安全EBPM支援サービス



リアルタイム被害予測cmap



誰もが活躍できる共生社会の実現

## TOP MESSAGE

# トップメッセージ



まだ誰も知らない安心を、ともに。

## CSV×DXを通じて、お客さま・地域・社会の未来を支えつづける会社を目指してまいります。

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
国内外で発生した自然災害で被災された皆さまへ、心よりお見舞い申し上げます。  
お客さまの一日も早い復旧の為に、迅速・適切な保険金支払いに取組みます。



当社は中期経営計画（2022-2025）において、これまで築き上げてきた特色ある成長基盤である「先進性」「多様性」「地域密着」の更なる強化に加え、お客さまとともにより良い未来を創造する CSV×DX 戦略に国内外で取り組んでいます。CSV×DX とは、最先端・独自の技術やデジタル・データの活用、特色あるパートナーとの協業により、お客さま・地域・社会が真に求める新たな価値を提供していくことで、社会・地域課題の解決にグローバルに取り組むことです。これまでの保険にはない“新たな価値”を創造し、CSV（Creating Shared Value）の連鎖を展開してまいります。

「サステナビリティ」についても、中期経営計画の基本戦略の一つとして取組みを強化しています。CSV×DX の考えのもと、3つのサステナビリティ重点取組項目を定め、地域・社会課題の解決を通じ、サステナビリティ課題に対処するための取組みを進めております。社員一人ひとりが地域・社会の課題に自分ごととして取組み、お客さま、代理店、取引先をはじめとする全てのステークホルダーの皆さまとともに CSV×DX を加速させ、「社会のサステナビリティ」と「当社の持続的成長」の同時実現を目指し、取組みを推進していきます。

### ■ 健やかな地球環境を未来へつなぐ(Planetary Health)

相互に関連している「気候変動への対応」と「自然資本の持続可能性向上」を軸に取り組んでいます。当社グループの温室効果ガス排出量を2019年度対比で2030年度に50%削減し、2050年度にはネットゼロとする目標を掲げ、自社の削減取組みに加え、商品やサービスの提供や投融资等を通じてステークホルダーの皆さまとともに社会全体の脱炭素化を進めています。

### ■ レジリエントな社会の実現へ貢献する(Resilience)

自然災害の多発・激甚化や産業構造の変化に伴う新たなリスクの発現によって生じる様々なリスクに対応した商品・サービスを提供することで、社会の安定的な発展に貢献していきます。また、防災・減災力の強化では、データ分析やAIの活用によるリスクの可視化を通じた課題解決を提供しています。地域の課題解決に向けた取組みでは、各ステークホルダーと連携し持続可能な地域・社会づくりの推進（地方創生の推進等）へ引き続き取り組んでいきます。

### ■ すべての人の幸福と自分らしい生き方を支える(Well-being)

企業の健康経営、個人の健康増進・予防、運転寿命の延伸に資する商品・サービスを提供しています。すべての人が安心して暮らすことができる社会の実現に向けて、ステークホルダーを含めた人権デュー・ディリジェンスを推進しています。また、「人財」を最重要の経営資本、当社価値向上の原動力と位置付け、人財育成に積極的に取組みます。従来の「D&I」にエクイティ（公平性）を加え「DE&I」として、多様性ある社員一人ひとりの機会の公平性確保やサポートを実施していきます。共生社会の実現と「地域密着」のさらなる実現に向けてスポーツ支援、とりわけバラスポーツ支援に引き続き取り組んでまいります。

CSV×DX のキャッチコピーは「まだ誰も知らない安心を、ともに。」です。一人でも多くの皆さまに「まだ誰も知らない安心」を実感いただけるよう、当社は、これからも地域密着で、国内外のお客さま、地域・社会の皆さま、代理店・取引先をはじめとする全てのステークホルダーとともに、国内外の社会・地域課題解決の取組みを加速させ、サステナブルな未来を創っていきたくと思います。引き続き、一層のご愛顧とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

「CHANGE！」メッセージムービーはこちら

[https://www.aionissaydowa.co.jp/corporate/about/mov02.html?TB\\_iframe=true&width=658&height=410](https://www.aionissaydowa.co.jp/corporate/about/mov02.html?TB_iframe=true&width=658&height=410)

代表取締役社長 新納啓介



# SUSTAINABILITY

## 健やかな地球環境を未来につなぐ

～ Planetary Health ～

健やかな地球環境を未来につなぐために、気候変動への対応や自然資本の持続性向上（生物多様性の保全）等に取り組めます。

### 環境取組み

#### カーボンニュートラル実現に向けた気候変動対策

社会に大きな影響を与える気候変動への対応を強化し、お客さまや代理店、株主、投融資先などのステークホルダーの皆さまとともに「2050年ネットゼロ」の実現に向けて取組みを推進していきます。また、生物多様性の喪失等の対応として、自然資本の保全・回復にも気候変動と一体的に取り組んでいます。

01



事業活動における GHG 排出量のさらなる削減

- 【具体策】 ・ 電力・ガソリン・紙・廃棄物などの削減、リサイクルの推進等  
・ 再生可能エネルギーの導入

02



損保事業を通じた社会への貢献

- 【具体策】 ・ サステナビリティを考慮した事業活動（保険引受、投融資）  
・ 脱炭素社会を支援する商品・サービスの提供  
・ 脱炭素化につながる投融資の実行や、気候変動に対応した対話の実施

03



産業構造や経済社会の変革を踏まえた成長

- 【具体策】 ・ 取り巻く環境の変化を踏まえた「グリーン成長戦略」への取組み

#### MS & ADグループ 温室効果ガス排出量削減 中長期目標

(2023年4月1日時点)

2030年度	2050年度
Scope1,2 ▲50% Scope3 ▲50% (カテゴリ 1,3,5,6,7,13)	NET ZERO (all カテゴリ)
再生可能エネルギー導入率目標 60%	再生可能エネルギー導入率目標 100%

#### 地球環境との共生～ MS&AD グリーンアースプロジェクト～

2022年度から、自然環境の保全・再生や環境負荷低減、防災・減災、地方創生をテーマとした「MS&ADグリーンアースプロジェクト」を開始しました。eco保険証券、Web約款、動画パンフレット等の活用による寄付の実施も含め、以下の4つのテーマで、レジリエントでサステナブルな社会を目指します。



- 1 自然環境の保全・再生による防災・減災と地方創生
- 2 ペーパーレスによる環境負荷低減
- 3 電力やガソリン利用の抑制による環境負荷低減
- 4 廃棄物削減による持続可能な資源の利用

MS&AD グリーンアースプロジェクト : [https://www.ms-ad-hd.com/ja/csr/green-earth\\_project.html](https://www.ms-ad-hd.com/ja/csr/green-earth_project.html)

## 自然環境の保全・再生による防災・減災と地方創生

当社グループは、生態系を活用して気候変動の緩和と適応等の課題を解決する「Nature Based Solution」※の概念を「グリーンレジリエンス」として捉え、いち早く取り組んできました。「グリーンレジリエンス」とは、自然の恵みを活かし、生物の多様性を守りながら、自然災害の被害を和らげ、その魅力で地域も活性化するという、好循環を生み出す考え方を言います。

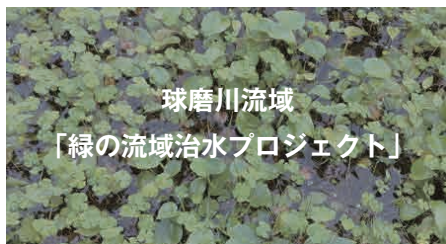


※2021年11月に英国で開催された「COP26」では、2030年までに森林破壊をなくすという目標が提唱され、日本を含む100か国以上の政府が合意しました。その解決策として、生態系を活用して気候変動を緩和する「Nature Based Solution」の概念が示されました。

「グリーンレジリエンス」動画

## 日本国内の湿地・里山・藻場の保全活動

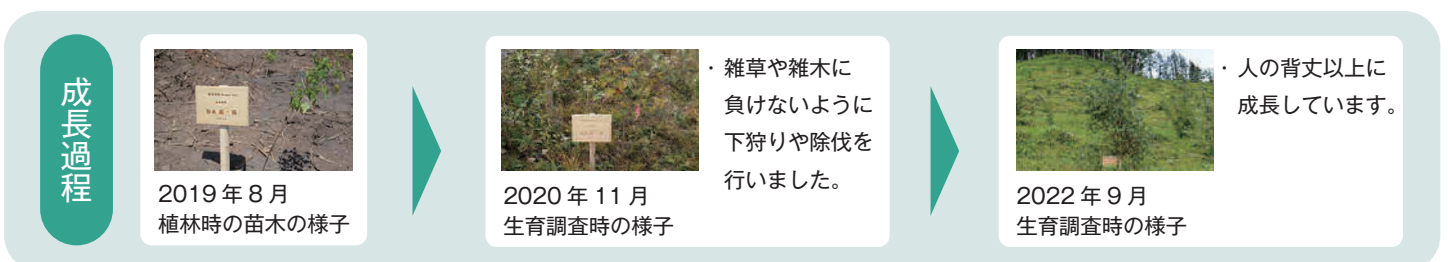
日本では、温暖化の影響による、大雨の発生件数が増えており、河川の護岸やダムだけで防御するのではなく、流域全体で水害を防ぐ「流域治水」や自然を活かした社会基盤の整備「グリーンインフラ」が注目されています。これは、防災・減災だけではなく、第一次産業や観光の復興という面においても、自然を有効に活用するものです。当社グループでは、自然の多面的な機能を活かしたレジリエントでサステナブルな社会を目指し、2022年度から熊本県球磨川、南三陸の自然環境保全・再生エリアで、環境保全活動を開始し、2023年度は、印旛沼流域でのプロジェクトを開始します。



球磨川流域「緑の流域治水プロジェクト」はこちら  
[https://www.ms-ad-hd.com/ja/csr/green-earth\\_project/project\\_001.html](https://www.ms-ad-hd.com/ja/csr/green-earth_project/project_001.html)  
南三陸町「いのちめぐるまちプロジェクト」はこちら  
[https://www.ms-ad-hd.com/ja/csr/green-earth\\_project/project\\_002.html](https://www.ms-ad-hd.com/ja/csr/green-earth_project/project_002.html)  
印旛沼流域「美しい里山と健全な水循環プロジェクト」はこちら  
[https://www.ms-ad-hd.com/ja/csr/green-earth\\_project.html](https://www.ms-ad-hd.com/ja/csr/green-earth_project.html)

## 植林活動～あいおいニッセイ同和損保の森～

北海道美幌町にて広葉樹の植林活動を展開し、生物多様性に配慮した森づくりを支えています。お客さまの「ペーパーレス保険証券・Web約款」等の選択率に応じた一部を植林活動へ役立てています。2019年8月より取組みを開始し、4年間で15.5haの土地に植樹をしました。美幌町では森林の環境保全に配慮した木材の認証制度であるFSC認証に力をいれています。当社は、森林を守り育てる活動に積極的に取り組んでいきます。



# テレマティクス自動車保険

## テレマティクス自動車保険から環境課題・社会課題の解決へ

事故低減に加え、「地球環境の保全」や「地域の活性化」等の新たな価値を提供することで、社会・地域課題の解決に貢献していきます。

### ■ CSV×DX を体現した商品 テレマティクス自動車保険

テレマティクス自動車保険は、テレマティクス技術を活用した各種機能でお客さまの安全運転をサポートします。充実した補償に加え、安全運転スコアと連動した保険料体系や運転診断レポートで事故を未然に防ぐとともに、先進的な損害サービスで事故の影響を減らし、回復を支援するという新たな価値を提供して、交通事故削減という社会課題解決に貢献しています。

未然に防ぐ 充実した補償 影響を減らし、回復を支援する

リスクを見つけ伝える 経済負担を小さくする リスクの発現を防ぐ 影響を小さくする

商品ラインナップ

TOUGH つながるクルマの保険 TOUGH 事業用自動車総合保険

TOUGH 見守るクルマの保険プラス TOUGH 見守るクルマの保険プラスS

TOUGH 事業用自動車総合保険 TOUGH 事業用自動車総合保険

ささえる NAVI Biz セイフティ

テレマティクス自動車保険

安全運転スコア 運転診断レポート 脳体操アプリ

安全運転で保険料がお得に♪ 8%割引! 4%割引! 85点 74点 59点

安全運転スコアに応じて継続後の保険料が決まります。

自分の運転の特徴を知り、振り返ることができます。

安全運転に必要な自動車運転機能と認知力・活力をアプリで楽しくトレーニング

納得感のある保険料 万一の際の充実の補償

適切な事故状況把握 迅速・適切な事故解決

事故頻度 ▲15.0%



タフ・つながるクルマの保険動画



タフ・見守るクルマの保険プラス（ドラレコ型）動画



タフ・見守るクルマの保険プラスS動画



ささえる NAVI 動画

### ■ CSV の連鎖 テレマティクス自動車保険が生み出した新たな価値

テレマティクス自動車保険が解決する社会課題は、事故の削減に留まりません。安全運転の促進等を加速させることで、事故低減に伴う産業廃棄物削減やエコドライブ推進等によるCO<sub>2</sub>排出量削減につなげ、カーボンニュートラルの実現にも貢献していきます。また、データを活用した自治体共同での交通安全マップ作成や、脳体操アプリ活用での高齢者の運転寿命延伸による地域の活性化など、CSVを連鎖させ、様々な社会・地域課題の解決を目指します。

事故低減に伴う産業廃棄物の削減

エコドライブ普及 CO<sub>2</sub>排出削減

事故渋滞の削減 CO<sub>2</sub>排出削減

地域交通安全対策

テレマデータを活用し、自治体共同での交通安全マップの作成

地域活性化

高齢者の運転寿命延伸

地球環境の保全

様々な社会・地域課題の解決

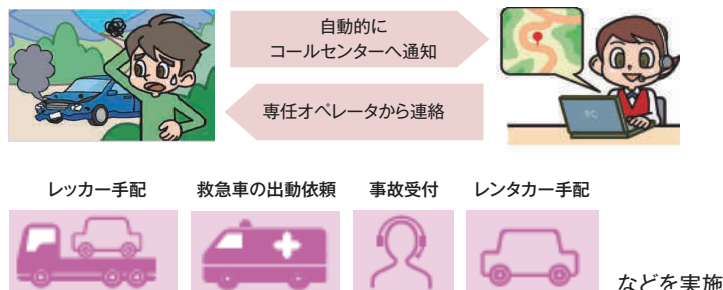
お客さま向けアプリにて、CO<sub>2</sub>削減量を表示 ※2023年10月～予定

## テレマティクス損害サービスシステム

テレマティクス自動車保険のデジタルデータを活用し、お客さまが事故に遭われた際にも迅速かつより適切に事故解決をサポート。

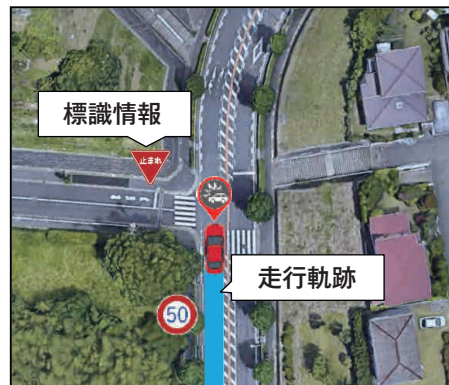
### ■ 事故緊急自動通報サービス

大きな衝撃を検知すると自動的にコールセンターへ通知し、お客さまへ連絡。レッカー手配などの初期対応を実施。※一部商品を除く



### ■ 事故状況の説明負担軽減

事故の場所や事故に至るまでの走行経路等を正確かつスムーズに把握。



### ■ AIによる事故状況把握・過失判定サポート

当社オリジナルのドライブレコーダーの映像をAIが解析。相手車両の速度の導出や、解析した事故情報を判例情報と照らし合わせて過失割合の判定をサポート。



公式HP「テレマティクス損害サービス」はこちら：[https://www.aioinissaydowa.co.jp/corporate/service/telematics\\_claims\\_service/](https://www.aioinissaydowa.co.jp/corporate/service/telematics_claims_service/)

### ■ [動画]「テレマティクス損害サービス」紹介

テレマティクス損害サービス(高度な事故対応)の紹介動画は以下の二次元コードからご覧いただけます。



## リサイクルパーツの活用促進

### リサイクルパーツを活用した環境に優しい自動車修理

自動車部品の製造や廃棄にはCO<sub>2</sub>が排出されるため、環境に優しいリサイクルパーツを活用した修理を事故にあわれたお客さまにお勧めしています。



2022年度に当社が事故の対応を行った事案におけるリサイクルパーツの活用点数は**2万点**を超えています。これに伴い、**200トン**を超えるCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献しています。

※2022年度当社自動車保険の保険金支払データを基に当社独自の方式で算出

今後も、お客さま、地域・社会とともに廃棄物削減やCO<sub>2</sub>削減に貢献していきます。

## SUSTAINABILITY

# レジリエントな社会の実現へ貢献する

～ Resilience ～

産業構造の変化に伴う新たなリスクの発現や、防災・減災力の強化、地方創生の推進に取り組むことで、レジリエントな社会の実現へ貢献します。

## 地方創生取組み

当社は、行動指針である「地域密着」の確立を目指し、2016年から地方創生プロジェクトに取り組んでいます。

### 各ステークホルダーと連携し、地域の課題解決を支援

### AD 地方創生プロジェクト

地方創生プロジェクトでは地方自治体、地域金融機関、地域企業等と幅広く連携し、全国のリテール支店に設置した地域戦略室や「地域密着」の担い手である代理店を中心に、地域の課題解決に向けた取組みを絶えず進めています。

地方自治体との連携協定数

# 477

(2023年6月末時点)

地方自治体以外にも、地域金融機関、大学、商工団体、都道府県警察、在日外国商工会議所などとの連携の輪も広がっています。



### CSV×DX を通じて、「地域密着」の確立へ

当社は、「地域社会への貢献活動」、「課題解決支援メニュー」提供、「先進技術を活用した支援メニュー」提供の3つの取組みで地域の課題解決をサポートしています。

2022年度から開始した中期経営計画のもと、CSV×DXをコンセプトとする商品・サービスの提供など、本業を通じて、お客さま・地域・社会とともに、社会・地域課題の解決を図り、「先進性」「多様性」を進展させ、「地域密着」の確立を目指します。

### 本業を通じてお客さまとともに社会・地域課題を解決し、「地域密着」の確立へ





私たち代理店は、地域の皆さまから信頼される存在であり続けるために、日頃から、地域に密着した活動に取り組んでいます。また、あいおいニッセイ同和全国プロ会としても、2021年10月に「SDGs宣言」を行い、持続可能な社会づくりに向けて、社会・地域課題の解決に取り組んでいます。今後も「地域密着」の担い手、地域のリスクマネージャーとして、あいおいニッセイ同和損保とともに、地域の皆さまに寄り添い、地方創生に貢献していきます。

あいおいニッセイ同和全国プロ会会長  
中島 忍



地方創生プロジェクトでは、地域に根ざし活動する代理店とともに、顔の見える活動をすすめています。また、2021年4月から全国のリテール支店に地域戦略室を設置し、地域の皆さまとともに、SDGsを道標とする課題解決の取組みを進めています。今後も、中期経営計画のもと、CSV×DXをコンセプトに、本業を通じた社会・地域課題解決を推進することで、「地域密着」の確立を目指していきます。

地方創生プロジェクトオーナー  
専務執行役員 金田 実

## 【Topics】『冬のDigi田甲子園』で優勝し、内閣総理大臣賞を受賞

### 取組名

#### デジタル(テレマティクス)技術を活用した 新たな交通安全対策

2022年度、当社が福井県・福井県警察と実施した「デジタル(テレマティクス)技術を活用した新たな交通安全対策」の取組みが、内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局が主催する「冬のDigi田甲子園」で優勝し、内閣総理大臣賞を受賞しました。このように、当社のCSV×DXを体現するテレマティクス自動車保険の技術・データを活用した社会・地域課題解決の取組みは、社外からも高い評価を受けています。



デジタル田園都市国家構想実現会議事務局より提供

## リアルタイム被害予測 cmap(シーマップ)

災害前後のリスクを地図上に可視化、地域の防災・減災に役立てるようウェブ・アプリで無償公開しています。

### 平時も有事も防災・減災に関する情報を表示

cmapは、台風・豪雨・地震による建物被害をリアルタイムで予測する世界初\*のウェブサイトです。

\*世界初…2019年6月当社調べ

cmapの詳細はこちら

<https://www.aioinissaydowa.co.jp/corporate/service/cmap/>

### ■【動画】cmap 機能紹介(3分40秒)

cmapの機能紹介動画はこちらの  
二次元コードからご覧ください。







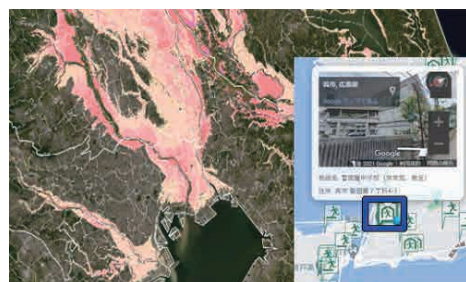
台風上陸前から予想進路と最大7日先の建物被害予測を市区町村別に表示します。



大雨・河川増水など、気象の異変や災害・ライフラインに関するSNS情報を地域別・事象別に表示します。

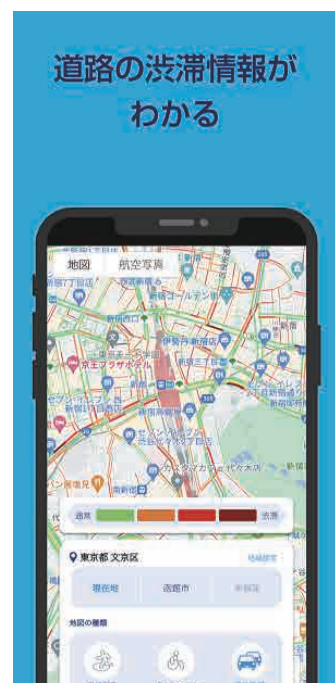


洪水・土砂・津波ハザードマップや避難先情報など、防災・減災に役立つ情報を無償で一般公開しています。



## cmap アプリ (被害予測・防災 cmap)

アプリには、天気予報などの生活指標や道路情報があるほか、災害時の緊急情報や防災アドバイスをプッシュ通知する機能があります。平時も有事も必要な情報を手軽に把握することができます。



こちらの二次元コードを読み取りインストールしてください



### ■【動画】cmap アプリ紹介(3分40秒)

cmapのアプリ紹介動画はこちらの二次元コードからご覧ください。





# SUSTAINABILITY

## すべての人の幸福と自分らしい生き方を支える

～ Well-being ～

少子高齢化の進行や人権デュー・ディリジェンス、地域共生社会の実現に向けて取組みを推進し、すべての人の幸福と自分らしい生き方を支えます。

## DE&I

### ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン (DE&I) 推進の取組み

DE&Iの推進を重要な経営課題のひとつと位置付け、多様な人財が総活躍できる会社を目指して取り組んでいます。

※取組みの詳細はダイバーシティレポートに掲載しています。(右記の二次元コードからご確認ください)



#### 当社の取組み全体像

ダイバーシティ推進会議をはじめとする職場ミーティングを通じて、全社員が主体的にダイバーシティへの取組みを実践しています。

#### 「D&I」から「DE&I」へ

「D&I」にEquity (公平性)を加え、「DE&I」としてさまざまな機会の公平性確保やサポートを実施、多様な人財が活躍できる環境づくりに取り組んでいます。

すべての人が安心して暮らすことができる社会の実現にむけて、その前提となる人権尊重はもとより、当社の目指す姿「CSV×DXを通じて、お客さま・地域・社会の未来を支え続ける」の実現にむけて、人財を最重要の経営資本と位置づけ、人財育成と職場環境整備に取り組んでいます。

#### ■ 女性活躍推進

意思決定層の多様化を図るため、マネージャートレーニング制度(プレ部支店長・プレライン長育成プログラム)やメンター制度・異業種勉強会等のキャリア支援を通じ、女性リーダー層・次世代の候補者を育成しています。

#### ■ 多様な働き方の推進

多様な人財の総活躍にむけて、男性の育児休業の取得推進をはじめとした一人ひとりの仕事と生活が充実するような働き方と、LGBTQの理解促進など多様な価値観を受け入れる職場環境整備を推進しています。

#### ■ 障がい者雇用・活躍推進

「誰もが、楽しく、誇りをもって」働くことができる職場の実現を目指して、地域密着モデルや事務サポートセンターの展開など、障がい者雇用の拡大に留まらず、活躍推進にも積極的に取り組んでいます。



# スポーツ振興

## 地域貢献活動、教育支援、社員の一体感醸成活動

当社は、共生社会の実現とともに、「地域密着」のさらなる実現に向けてスポーツ支援、パラスポーツ支援を実施しています。

### ■ アスリート支援

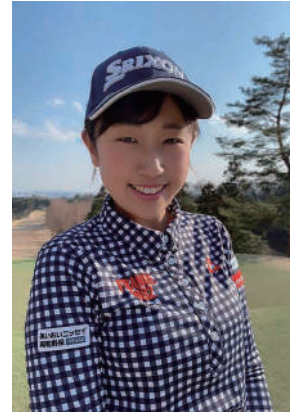
- ・ 所属アスリート20名(内パラアスリート11名)
- ・ アスリート雇用

2015年から積極的なアスリート採用を行い、所属アスリートは競技と仕事を両立しています。



- ・ プロアスリートのチャレンジをサポート!

プロランナーの川内優輝選手とプロゴルファーの菅沼菜々選手を全力でサポートしています。



### ■ 自治体と連携した普及啓発活動を全国で実施

全国の自治体に所属アスリートを派遣し、地域の社員とともに地域課題解決に貢献しています。(2022年度156回)



### ■ 川内選手との「マラソンキャラバン」

川内優輝選手との協力で全国展開し、県知事訪問、県警本部訪問等につなげ、より効果的なCSV取組みを目指します。



## ■ 大会応援

大会応援を通じて社内の一体感醸成、社員アスリートのモチベーション向上に繋がっています。



## ■ スポーツを通じた教育支援

小・中学校での講演・体験授業ほか、上智大学と産学連携の教育支援も行っています。



小・中学校での講演・体験授業



上智大学連携講座

## 東京都スポーツ推進モデル企業



当社は、「東京都スポーツ推進モデル企業」に5年連続で認定され、制度創設以来初、唯一の「殿堂入り企業」です。

## ■ 関連団体への協賛

- ・公益財団法人日本パラスポーツ協会
- ・一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟
- ・一般社団法人日本パラ水泳連盟

★詳細は特設サイト・SNSで随時発信しています!

AD Challenge Support  
あいおいニッセイ同和損保  
スポーツ応援サイト  
ADチャレンジ 検索



スポーツ応援サイト  
「AD Challenge Support」



Facebook  
「いいね!」募集中!

## INTERVIEWS

### 社員インタビュー

# 交通安全 EBPM 支援サービス

## INTERVIEW

### テレマティクス自動車の走行データを活用した 交通安全EBPM支援サービス

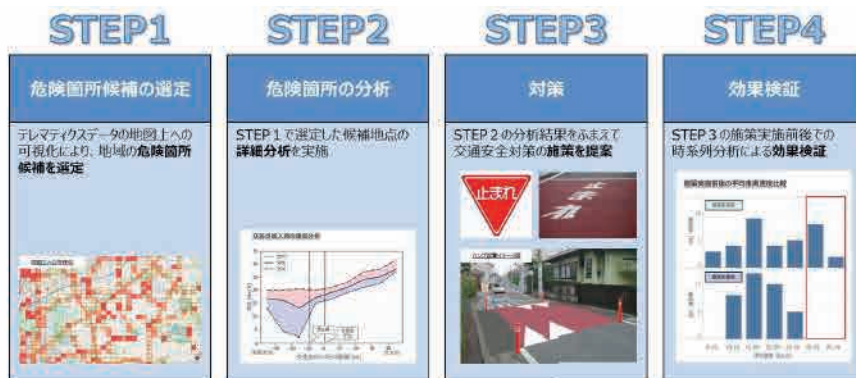
デジタルビジネスデザイン部  
鈴木もも



### Q. 交通安全 EBPM 支援サービスとはどのようなサービスか

- A. 当社は、社会・地域課題解決に向けた新たな価値提供として、2022年4月より「交通安全EBPM<sup>※1</sup>支援サービス」を開始しました。本サービスは、道路標識の設置検討や通学路の危険箇所の見直し等の地方自治体の抱える交通安全に関する課題を、当社が保有するテレマティクスデータ（急減速等）をもと<sup>※2</sup>に分析を行い、解決の支援を行うサービスです。

地方自治体で抱える交通安全に関する課題をヒアリングし、各課題に即した分析を様々な切り口から行います。具体的には下図の4ステップで実施します。まず第一に、危険箇所候補の選定を行い、そして、選定した危険箇所候補の詳細分析を通じて、最適な交通安全施策をご提案します。加えて、施策実施前後の比較分析も行い、施策の効果検証や有効性向上を支援します。これら分析サービスを「交通安全EBPM支援サービス」としてワンストップでご提供し、機動性の高い、また持続性のある「安全・安心なまちづくり」の実現に寄与します。



※1: EBPMはEvidence-Based Policy Making（証拠に基づく施策立案）の略で、政府にて推進されており、施策効果の測定に重要な関連を持つ情報や統計等のデータの活用により、施策の有効性を高める。

※2: 個人情報を含まない形で自動車走行データの加工・統計化を実施。

## Q. 自治体等の導入事例

- A. これまで6つの地方自治体に導入していただきました。静岡県裾野市では、都市計画道路整備に伴う交通環境の変化により新しい危険要因が発生した対応として一時停止標識の設置を行いました。その効果検証として一時停止遵守傾向や急減速発生状況の分析を実施し、標識設置効果を示しました。また、福井県福井市では、新たなゾーン30※の設定検討や効果検証に活用いただきました。この他にも、自転車通行空間整備の効果検証や、交通施設設置に関する住民からの要望と掛け合わせた分析、地域の合同点検への活用などの施策にお役立ていただいています。

導入いただいた地方自治体からは「人が感じている危険箇所の裏付けができた」、「施策の効果が定量的に確認できた」などのお声をいただいています。このように、データを活用し地方自治体や地域住民のみならずとも交通安全に関する課題の解決に取り組むサービスとして、冬のDigi田甲子園にて優勝し内閣総理大臣賞を受賞することができました。

※：生活道路における歩行者や自転車の安全な通行を確保することを目的とした交通安全対策の一つ

## Q. 今後の展開

- A. 昨年度は実証実験を実施し、ノウハウを蓄積してきました。今年度は正式な有償サービスとして全国の地方自治体に対してメニュー提供を行っていくことを目標に掲げ取り組んでいます。また、引き続き本サービスの更なる高度化に向けた開発も行い、安全・安心なまちづくりへの活用検証も進めていきます。



## INTERVIEWS

### 社員インタビュー

# リアルタイム被害予測ウェブサイト cmap

## INTERVIEW

### リアルタイム被害予測ウェブサイト cmapを活用した防災・減災取り組み

損害サービス業務部  
マネジメントサポートグループ  
黒田 真由子



### Q. cmap の概要

- A. 台風・豪雨・地震による建物の被害件数をリアルタイムで予測し、無償で一般公開する世界初※のウェブサイトです。当社とエーオングループジャパン、横浜国立大学の共同研究の一環で2019年にリリースしました。その後も様々な機能を追加していますが、自然災害が発生した際に役立つ情報をすぐに提供できるよう、アプリ版もリリースしています。

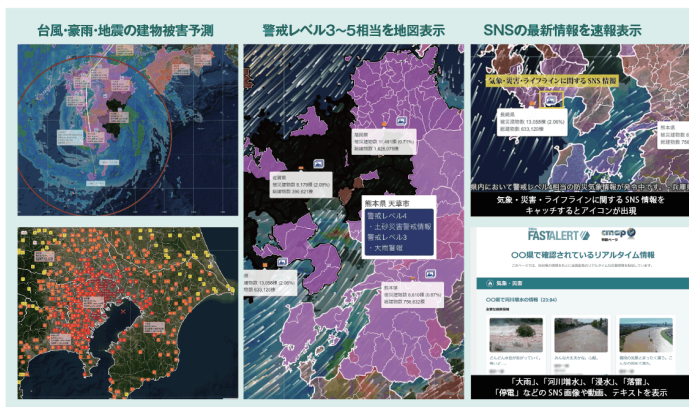
なお、cmapの「c」は、自然災害を意味するcatastrophe(カタストロフィー)の頭文字cをとったものです。

※2019年6月当社調べ

### Q. 取組みの概要

- A. cmapは、「損害保険会社の保険金支払データとデジタル」を活用して、自然災害に関するリスクをリアルタイムでウェブサイトの地図上に可視化する取組みです。例えば、台風が発生すると上陸する前から3パターンの予想進路と、最大7日先の被災建物数を予測し、市区町村別に表示します。豪雨や地震においては、発生直後から予測結果を表示します。その他、警戒レベル3~5相当の情報や、気象・災害・ライフラインに関するSNSの速報など、災害に関するさまざまな情報を確認いただけます。

また、アプリには、日常から利用できる天気予報や渋滞情報がある他、災害時の緊急情報をプッシュ通知する機能もあり、どなたでも手軽に様々な情報をご確認いただけます。



## Q. 開発の背景

- A. 2018年の台風21号では、事故受付を多くて3万件と見込んでいたところ、実際には13万件となりました。さらに、同じ年の台風24号では7万件の受付がありました。そのため、事故の受付から保険金の支払いまでのすべての工程でオーバーフロー状態となり、お客さまをお待たせすることになりました。被害の規模を精緻に予測できれば、迅速に保険金をお支払いするために必要な人員の確保などを早期にすすめることができます。cmapを開発することで、自然災害による被害の規模を早期に把握し、社内体制を構築することができるようになりました。

## Q. cmap を活用した防災・減災取組み

- A. 自然災害が発生してから色々なサイトを見て情報を収集することは大変ですが、cmapは、災害発生前後の情報をワンストップで確認することができます。例えばSNS情報は、大雨の情報や河川の増水、河川の氾濫等、地域のリスクをまとめて表示しており避難の判断をする際の参考情報として活用いただくことができます。平時もハザードマップや、避難所の位置情報など、地域の防災・減災に役立つ情報をどなたでも確認いただけます。

cmapを活用した防災・減災取組みは、今年3月、内閣府特命担当大臣が表彰する地方創生に資する金融機関等の「特徴的な取組事例」に認定されました。

詳細:内閣府特命担当大臣(地方創生担当)が表彰する地方創生に資する金融機関等の「特徴的な取組事例」を受賞  
[https://www.aioinissaydowa.co.jp/corporate/about/news/pdf/2023/news\\_2023031301132.pdf](https://www.aioinissaydowa.co.jp/corporate/about/news/pdf/2023/news_2023031301132.pdf)

## Q. 自治体との共同・活用事例等

- A. 当社は、長野県職員向けcmapを構築し、東京大学・JAXA、名古屋大学とともに、洪水予測データを活用した流域治水の共同研究を行っています。また、総務省消防庁が2022年に策定した『大規模災害時の救助・捜索活動における関係機関連携要領』で、災害時の情報収集サイトの1つとして民間で唯一、cmapを取り上げていただいた他、福井市の防災ハンドブックで防災ツールとしても紹介いただいています。

## Q. 今後の展開

- A. 自然災害の激甚化により、お客様や地域社会が抱えるリスクがより高まっています。

従来の保険は事故が起きた後の補償という考え方が中心でしたが、保険の基本機能にとどまらず、事故や災害を未然に防ぐ機能、事故や災害の影響を減らし回復を支援する機能など、社会課題の解決に寄与する付加価値を高めたサービスを提供し、レジリエントな社会づくりに貢献できるよう努めてまいります。







INTERVIEWS

社員インタビュー

誰もが活躍できる共生社会の実現



## INTERVIEW

誰もが活躍(チャレンジ)できる共生社会の実現

車いすバスケットボール\*  
中部損害サービス第三部  
岐阜第一サービスセンター  
秋田 啓 選手



※チーム5人の選手がボールを奪い合い、ゴールに投げ入れて得点を競う。ルールは一般のバスケットボールとほぼ同じで、ゴールの高さも同じく3.05mである。ダブルドリブルの代わりに、ボールを持っているときブッシュ(車いすをこぐこと)は連続2回までといったルール、「トラヴェリング」が適用される。

### Q. 車いすバスケットボールの魅力

- A. 車いすならではのスピード感やマシン同士の接触音は過激さもあり、パラスポーツの中でも激しいスポーツだと思うので、見ごたえはあると思います。選手によってそれぞれクラス分けがあって、障がいの度合いの重い選手から軽い選手までが同じコートに立って試合ができるというのも一つの魅力だと思います。



2018年アジアパラ競技大会

バラスポーツに限らずスポーツ全般ですが、応援の声は選手の力になっていると思います。僕自身、あいおいニッセイ同和損保という会社に所属することで、自分の所属する部門以外の社員の方や代理店さんからも応援いただけることで競技に対する大きな力になっており、価値だと感じています。また、日本代表で国際試合に出場した時は、地元を上げて応援していただき、地域の皆さんの声援は大きな励みになっています。

## Q. チャレンジするマインドセット方法

- A. 僕自身は改めてモチベーションを保つ方法などの意識はしておらず、車いすバスケットをしているのが楽しいと感じる気持ちが一番です。続けられているのは、もっと上手になりたいという気持ちが根本にあります。その根本が揺らがないので、落ち込むことや、悩むことはあっても解決できたのだと思います。自分自身の揺らがない軸を持つことが大切だと考えます。もし、課題に直面した時は、そもそもなぜそれをしたかったのか、続けている理由を考える等初心にかえるようにしています。僕は30才過ぎてからドイツ・ブンデスリーガにチャレンジしました。日本代表としてまだまだ活躍したいという思いがあり、そのためには海外の選手たちと日々戦える環境が必要でした。その経験値を得るために環境を変える選択をしてチャレンジしました。リーグ参戦自体はとても良い経験になったと思っているので、ワンシーズンだけに限らず、今後もチャレンジできたらと考えています。

## Q. チームワーク（チームビルディング）の築き方

- A. チームのために自分ができることは何か、自分の役割を客観的に考えています。特に、チームメイトに求められていることに答えることを心がけています。その上で、コミュニケーションをとることは大事だと思い、積極的にコミュニケーションを図っています。車いすバスケットは、障がいのレベルに応じて選手がクラス分けされており、クラスによって出来る動作が異なり、役目が分かれます。得意な動作、苦手なことがクラスによって異なるのでコミュニケーションが取れていないと、プレイが成立しないのです。

## Q. 共生社会の実現に向けて～すべての人が諦めることのない、バリアフリーな社会～

- A. 僕自身が障がい者という立場ですが、当事者が発信することも大切だと思います。

当事者が諦めてしまう環境があるとすれば、周囲に協力を得て解決する方法をともに探るなど出来るかと思います。このようなテーマでお話をすると、周りの人が助けなければいけないとか、障がい者の人には手をかけないといけなく思われることがありますが、当事者がどこまで協力が必要か、当事者にとって何が必要か明確にする必要があります。諦めてしまう状況があれば、なぜ諦めてしまうのか、誰かと一緒に解決できるようにしていくことが社会には必要だと思います。ハードな面のバリアフリーでは、日本は進んでいる方だと思いますが、行き届いていないところもあるので、更に整備が進めばと思います。一方、ソフトの面では、当事者のマインド開示と周囲の理解が必要だと考えますので、当事者の発信がさらに増えると良いなと思います。



# COMPANY 会社概要

## 会社概要

名称	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
英名名称	Aioi Nissay Dowa Insurance Company, Limited
設立	1918年6月30日
資本金	1,000億円
総資産	3兆7,336億円
正味収入保険料	1兆3,355億円(2022年度)
従業員数	12,741名
本社	〒150-8488 東京都渋谷区恵比寿 1-28-1 アクセス JR山手線・埼京線「恵比寿駅」 東口から徒歩7分 東京メトロ日比谷線「恵比寿駅」 1番出口(JR恵比寿駅方面)から徒歩9分
国内ネットワーク	営業部・支店 <sup>※1</sup> 88カ所 営業課・支社・室 <sup>※1</sup> 291カ所 損害サービス部 <sup>※1</sup> 27カ所 サービスセンター・サービスオフィスほか <sup>※1</sup> 175カ所 代理店 <sup>※2</sup> 47,070店 ※1 2023年4月1日現在 ※2 2023年3月31日現在
海外ネットワーク	海外支店 <sup>※2</sup> 2カ所 海外駐在員事務所 <sup>※2</sup> 13カ所 海外元受代理店 <sup>※2</sup> 3カ所 ※2 2023年3月31日現在



(2023年3月31日現在)

## 2023年度コミュニケーションレポート

当社はCSV×DXを通じて、  
お客さま・地域・社会の未来を支え続けます。  
※環境負荷軽減の観点からコミュニケーションレポートは、  
冊子の作成を終了しペーパーレス化を推進しています。

こちらの二次元コードから動画でも  
ご覧いただけます。



まだ誰も知らない  
安心を、ともに。

